

はまだえきしゅうへん 浜田駅周辺地区都市再生整備計画

第4回まち交大賞
テーマ賞

浜田駅南北の一体性を高め、賑わいと魅力あるまちづくり



建て替えたJR浜田駅舎



駅舎(右)と医療施設(左)を結ぶ自由通路



住民参加の計画検討委員会の状況



市民参加型の記念事業イメージ図



駅舎内に設けた市民交流スペース

事業段階毎のポイント

Plan 計画策定時のポイント

～住民参加・住民の意向を踏まえた計画づくり～

- ・ 駅周辺の商店街を中心とした市民と「浜田駅南北自由通路・駅舎整備検討会」を設立し、様々な意見や要望事項を踏まえて自由通路や駅舎の計画を策定した。

Do 事業実施中のポイント

～行政評価システムの活用による検証～

- ・ 事業期間中は、行政評価システムを活用した外部評価を行い、事業成果や事業の進め方等に関して検証を行いながら、より効果的な事業推進を図った。

Check 事業評価時のポイント

- ・ 事業間相互の相乗効果により活性化を図り、商業への波及が拡大されることを望むとの意見があった。
- ・ 施設整備に伴って交通量が増加しており、周辺道路における安全対策が必要であるという新たな課題が発見出来た。

Action 今後のまちづくりへの反映

- ・ 浜田駅周辺地区の整備は、浜田医療センターへのアクセス向上だけでなく、周辺の土地利用転換が図られ、周辺住民や商店街等の期待も大きくまちづくりの気運も高まっており、今後は、整備した施設を活用してイベント等を開催する事により活性化を図っていく。

事業の位置付けや背景

本市は平成17年10月の市町村合併により県下3番目の人口と2番目の面積を有する市として県西部の中核都市を目指したまちづくりを推進している。

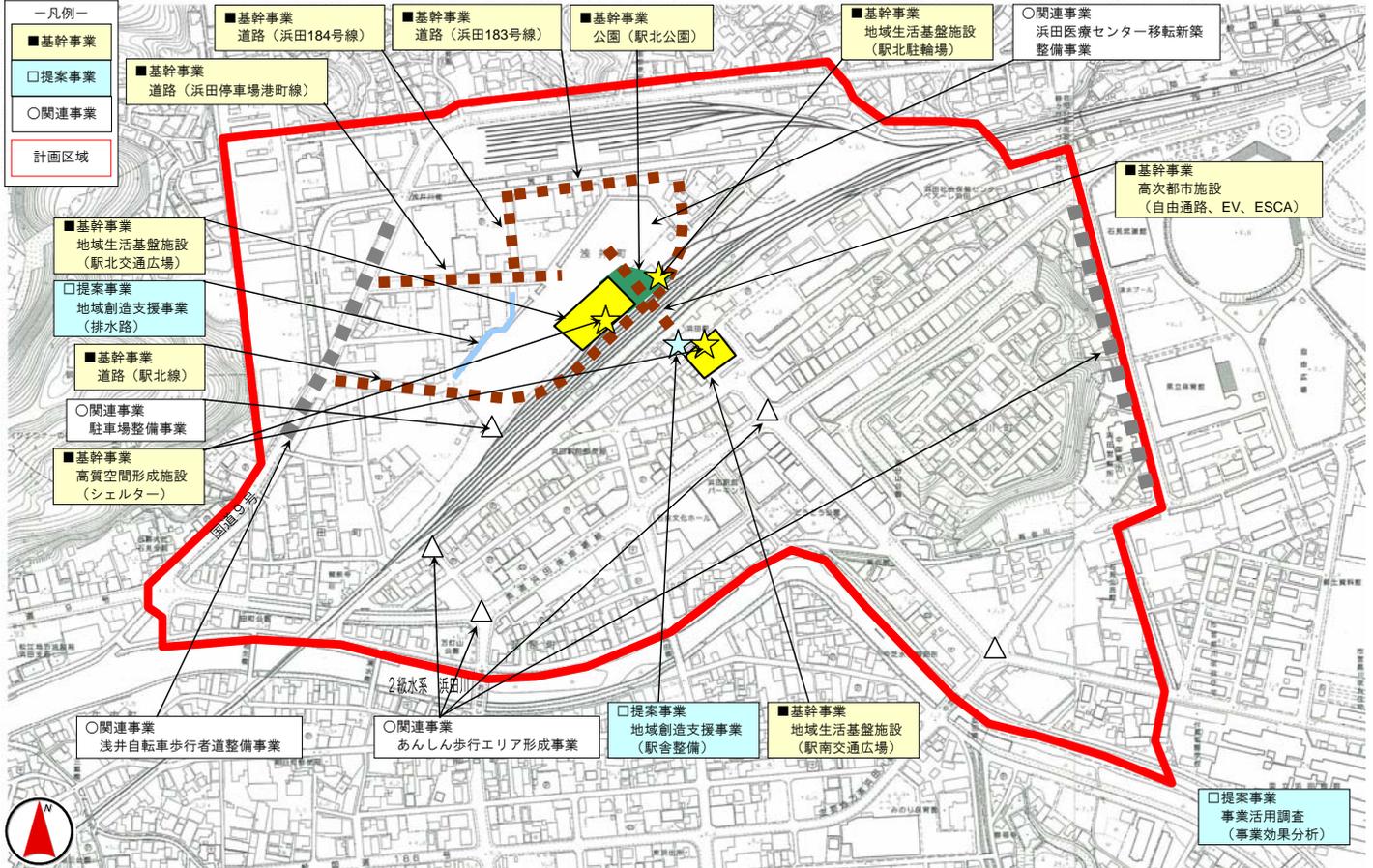
浜田駅周辺地区は、本市の商業・業務の中心として賑わってきたが、JR貨物ヤード廃止、スーパー移転等により賑わいが失われつつある。

そこで、本計画により、既存公共施設を活かしつつ、自由通路整備等により駅南北の一体化を図るとともに賑わいと魅力ある都市の再生を図るものである。

地区等の問題点・課題

- ・ 駅周辺は集客力のある施設が不足しているため空間的、機能的な求心力が失われつつあり、魅力的なシンボルエリアとして特徴づけ出来なくなっている。
- ・ 駅北側は大規模低未利用地が残されたままとなり、市街地整備が遅れている。
- ・ JR山陰本線により駅南北市街地が分断されて一体感がなく利便性が悪い。
- ・ 駅や医療センター、道路などのバリアフリー化が遅れている。

整備概要図



事業の目標・整備方針

【目標】

浜田駅周辺地区における大規模低未利用地を活用した浜田医療センターの移転新築に併せ、都市基盤整備を行うことにより、JR山陰本線で分断された駅南北市街地の一体性を高め、本地区の利便性向上及び賑わいと魅力を高める。

- ・ 駅北側の大規模低未利用地を活用し、浜田医療センターを核とした医療施設を集積することにより、地域医療の充実や住民の利便性向上を図る。
- ・ 交通結節点機能などの都市基盤整備による駅南北市街地の一体化と交通利便性の向上。
- ・ 高齢化社会等に対応したバリアフリーの推進及び、安全で快適な歩行空間等の整備による都市環境の充実。

【整備方針】

- ① 低未利用地を活用した「まちの核づくり」による、賑わいと魅力の創出
- ② 駅南北市街地の一体化による都市機能の強化・拡充
- ③ 歩行空間等の整備による都市環境の充実

事業内容

■ 事業計画諸元

- 事業名：浜田駅周辺地区まちづくり交付金事業
- 事業主体：浜田市
- 位置：浜田市琵琶町、浅井町、田町、黒川町
- 総事業費：2,216百万円
- 事業概要

- ・ 地区面積：47.4ha
- ・ 計画期間：平成18年度～平成21年度
- ・ 構成事業：

【基幹事業】

- ◆ 道路（駅北線、浜田停車場港町線、浜田183号線、浜田184号線）
- ◆ 公園（1箇所、A=0.11ha）
- ◆ 地域生活基盤施設（駅北交通広場（A=0.18ha）、駅南交通広場（A=0.23ha）、駅北駐輪場（A=0.01ha50台））
- ◆ 高質空間形成施設（シェルター（N=4箇所））
- ◆ 高次都市施設（自由通路（L=78m））

【提案事業】

- ◆ 地域創造支援事業
 - ・ 駅舎整備（延床330m²）、排水路（L=118m）
- ◆ 事業活用調査（事業効果分析）

主な事業の実施内容

■駅舎整備（浜田駅舎市民サロン整備）

- ・浜田駅及び駅周辺のかつての賑わいと魅力を取り戻すため、南北自由通路整備に併せて駅舎建て替えを行い、休憩所を兼ねた誰もが利用出来る「浜田駅舎市民サロン」を整備し、賑わいと魅力の創出を図った。



建て替えられたJR浜田駅舎



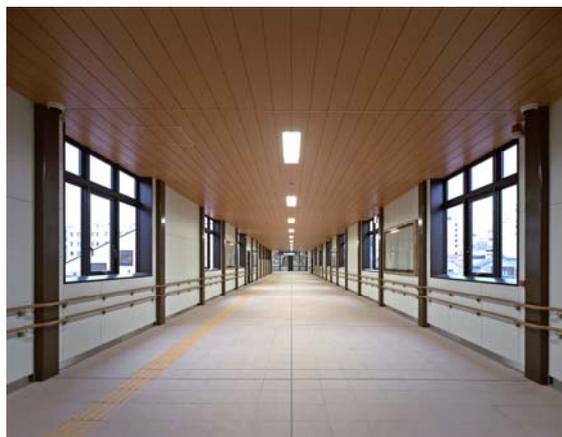
駅舎内に設けられた「浜田駅舎市民サロン」

■駅舎と医療施設を結ぶ自由通路整備

- ・浜田駅舎と駅に隣接して新設される医療施設を結ぶという、利便性が高く全国でも珍しい自由通路を整備した。



駅舎(右)と医療施設(左)を結ぶ自由通路を整備



整備した自由通路（W=3~5m、L=87m）

■施設整備と連携したその他の取り組み

◇公共スペースアダプト事業

- ・市がまちづくり交付金事業により整備する公共スペースをライオンズクラブがアダプトし、市民参加型の記念事業（市が整備する公園内に記念植樹やシェルターを設置し、市民と共に管理する）を展開し、まちづくりの気運を高めると共に持続的なまちづくり体制の構築を図った。

◇住民等の意向を反映した事業執行

- ・計画策定にあたっては、中心市街地活性化基本計画策定委員会から意見を求め計画に反映させたり、市民団体代表者からなる検討会を立ち上げ、意見を求め計画に反映させるなど、住民等の意向を反映した計画づくりを実施した。



公共スペースアダプト事業を実施した駅北公園



浜田駅周辺地区まちづくり交付金事業実施のために設置された各委員会に参加し、様々な意見を交わした。
当初計画されていなかった、駅舎へのエスカレータ設置や通路整備など、ユニバーサルデザインの観点から地域の意見として強く要望し、結果的に計画に取り上げられ整備できた事を大変喜んでいる。
今後も住民参加のまちづくりが実施されることを切に願っている。

地元の方からいただいたコメント

事業効果

■計画に記載した数値目標の達成状況

目標を定量化する指標	整備前 (H17)	目標値 (H21)	評価値
指標 1 医療センター移転地から駅前の移動時間 [分]	14 ⇒	3 ⇒	2
指標 2 駅南北の一体化度 [人/日]	702 ⇒	1,500 ⇒	2,106
指標 3 交通事故件数 [件] ※整備前指標年次；H16	14 ⇒	10 ⇒	11

■課題の改善状況

- ・ 浜田医療センター移転新築、駅南北自由通路整備に伴う浜田駅舎改築、自由通路と医療センターの接続等により、魅力的な賑わいのあるシンボルエリアとなった。
- ・ 駅舎内市民サロンには、観光案内や特産品販売の機能が充実し、市民だけでなく観光客にとっても魅力ある施設となった。
- ・ 大規模低未利用地を活用した浜田医療センターの移転新築に併せた周辺道路や公園整備により、市街地整備が図られた。
- ・ 自由通路の整備により、浜田駅南北を自由に行き来できるようになり、一体化が図られた。また、自由通路整備に伴う浜田駅橋上化により、南北からの利用が可能となり、利便性の向上が図られた。
- ・ 道路整備による歩道設置や段差解消、自由通路へのエレベータ・エスカレータ設置によるバリアフリー化を図った事により、安全性、利便性が向上した。



自由通路整備に伴い設置したエレベータ



自由通路整備に伴い設置したエスカレータ

■新たな課題の発見

- ・ 浜田医療センターへ車で来院する方が多く、交通量増加に対する安全対策が必要。
- ・ 公共交通結節点である浜田駅から、点在する観光地などへの二次交通網の整備が必要。

今後のまちづくりの方策

1. エレベータ及びエスカレータの管理

- ・ 自由通路に設置したエレベータ及びエスカレータの利用による事故が発生しないよう、維持管理を徹底して行う。

2. 防犯対策

- ・ 南北一体化のために整備した自由通路内で犯罪が発生しないよう、パトロールを定期的実施する。

3. 観光情報発信機能の充実

- ・ 市民サロンで取り扱う特産品の更なる充実を目指す。

4. 交通量増加に対する安全対策

- ・ 横断歩道の新設、速度制限の徹底、パトロールの強化、ボランティアによる歩行誘導等、公安委員会と協議し安全対策を図る。

5. 浜田駅から点在する観光地等への二次交通網の整備

- ・ 観光サイン整備等により目的地までの分かりやすい誘導を行うと共に、周遊バスの新設や貸切タクシーなどの効率的な活用方法を検討する。